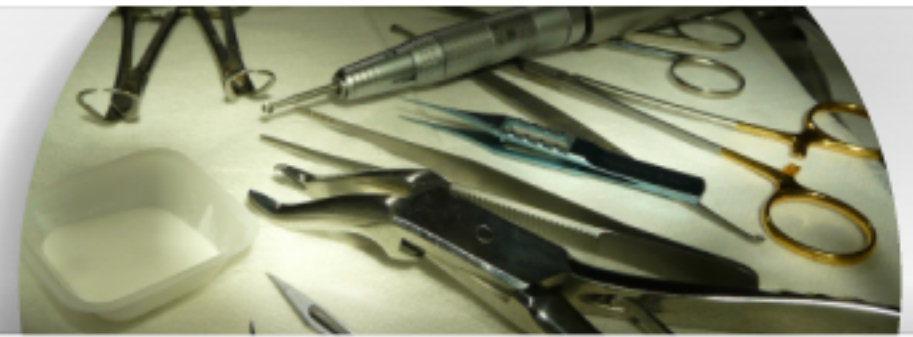


「フラテ」原稿



2005年

当分野では脳の機能を探るべく、動物を用いた神経生理学的研究、fMRIを用いた機能イメージング、イカを用いた生物物理学的研究、コンピュータを用いたシミュレーションなど、構成員それぞれの興味に合わせて多彩な研究がおこなわれています。例年どおり、各メンバーの自己紹介を募りました。

福島菊郎 教授

北海道大学は、昨年4月から法人化され、種々の変革、特に、定員削減、が急速に起こっています。教員に対し、レベルの高い研究を継続し、発展させることが求められているのは、大学院化した北大医学部にとって当然ですが、定員削減の状況下で、教育に対する貢献が、これまで以上に求められています。この一年間の当分野の教室員の移動につき、順不同でお知らせします。赤尾鉄平大学院生は、3月に無事、医学博士の学位を取得し、科学研究支援員として、これまでの研究をさらに発展させています。また、3月には、天野主任事務官が停年退任しました。天野さんには、永年、教室の事務を担当していただき、大変有り難うございました。4月からは、牧野均氏(美唄労災理学療法士)が、博士課程社会人大学院生として新たなメンバーになりました。また、6月からは、鈴木真理さんが、事務担当として、新たなメンバーに加わりました。海外との研究交流として、シカゴ大学医学部のMcCrea教授が7月に約20日間、小脳片葉領域の追跡眼球運動における役割の共同研究のため、滞在しました。この研究には、赤尾鉄平科学研究支援員、津布久崇大学院生(耳鼻科)、セルゲイクルキン助手、福島順子保健学科教授が参加してします。追跡運動の中枢機構を理解するために、さらに、新田大学院生(眼科)、笠原大学院生、斉藤大学院生が、追跡眼球運動に関わる小脳、大脳の種々の領域に再現される信号の性質を調べています。

田中真樹 講師

30代も半ばを過ぎ、公私共に充実した忙しい生活を送っています。仕事の方はここ数年取り組んできた運動性視床の研究が徐々にまとまりつつあり、技術職員の平野さんと医学部4年生の吉田君に助けられながら少しずつ新しいプロジェクトに着手しています。私生活のほうでも3人の子供たちと週末を楽しんでいます。

山野辺貴信 助手

今年度から、日本学術振興会によりジャック・モノー研究所(フランスCNRS)のPakdaman教授との共同研究に援助をしてもらえることになりました。これまでも、何回か渡仏していたのですが、この援助のおかげでフランス側研究者が日本に来て研究できるようになりました。研究内容はこれまでと変わらず神経系における情報符号化問題を研究しているのですが、この話を学生にすると研究目的よりも使用している実験動物(ヤリイカ)の方にばかり注意が向けられてしまうのが悩みの種?です。

Sergey Kurkin 助手

Originally I am from Rostov-on-Don, Russia. I got my PhD in biophysics in 1983. Since 1995 I joined the Laboratory of Sensorimotor and Cognitive Research at Hokkaido University Medical School. I am working on development of computer-based system to study the neural mechanisms controlling eye movements. This system comprises 3D virtual targets presentation, data acquisition, data analysis and computer modeling.

宮本環 研究員

医歯学総合研究棟地下1階にあるMRI装置を使って、機能的磁気共鳴画像(fMRI)をやっている。今年から研究に費やす時間を増やしてみた。成果は上がりつつあるもまだ不十分で、少し悩ましい。今年は今のところ研究用MRIに大きなトラブルがないのが救いである。

赤尾鉄平 研究員

この3月にはれて博士号を取り現在はポスドクとして引き続き当教室で研究に従事しています。ポスドクともなると使えない大学院生の指導をしたり、学会でもシンポジウムの座長をしたりと今までとは違った苦勞も多く大変です。博士号を持つ獣医として、動物園などからの引き抜きの話などもたまにあります。僕は論文を書いている時が一番幸せなので、できれば一生研究者として生きていけたらいいなと考える今日この頃です。

笠原敏史 大学院生(保健学科助手)

当教室ではじめて社会人大大学院生としてお世話になり、あっという間に4年間が過ぎようとしております。昨年から今年にかけ、少しずつ研究成果を発表することができ、福島教授をはじめ数多くの方々に感謝致しております。今年は最終学年ということで無事ゴールに到達できるよう最後まで頑張りたいと思います。

津布久崇 大学院生(耳鼻科)

とうとう大学院生活も4年目となりました。前庭刺激により誘発される予測性滑動性眼球運動に関する実験のまとめが一段落し、この4年間の集大成である小脳片葉領域の輻輳眼球運動に関する研究について、最終的なまとめに追われています。

新田卓也 大学院生(眼科)

この研究室にお世話になって2年目、神経眼科の新田です。ようやく僕の愛情に応えてくれる理想の動物と出会うことができました。こいつのおかげで僕の実験もより完璧に近づいてきましたし、独身生活も苦ではありません。この一年で実験ノートとともに、食のネタ帳もさらに厚みを増し(北大眼科ホームページ参照)、心身共に充実しております。強いていえば、教室の宴会会場のチョイスが保守的で、来年こそは師のバイブルを使って宴会の改善をしていきたいと考えております。いま気になっている事といえば以前、お貸したデスノートが未だ返ってきていないことです。(すみません。途中でストーリーが理解できなくなってしまった… T)

齊藤展士 大学院生(保健学科助手)

齊藤です、大学院も2年目になって動物も三頭目を担当する事になりました、が、やはり駄目な動物っぽいですが。実験もそろそろ本実験に入る段階にまでできましたが、やっぱりヘッドフリーが最高の実験だと思っています。そんな実験を担当できて、本当に幸せです。そうそう、実験といえば、最近EditSinの使い方を覚えました。これでもう完璧ですね。あっ遅れましたが、趣味は抄読会です。まだ顔を知らない方も居ると思いますが、机の上にキリンガラナを置いている人が私です。これからもよろしくお願いします。

牧野均 大学院生(美唄労災病院)

今年からお世話になることになりました、牧野です。美唄から高速飛ばしてやってきます。時間には正確で抄読会には開始時間丁度に現れ、終わりと共に家路に着きます。現在、fMRIの研究計画をまとめている最中ですが、既に動物を用いた実験の計画も着々と進行中です。理学療法士として長年疑問を持ち続けていた高次脳機能の解明にまた一歩近づけた気がします。若輩の院生に負けないようこれからもがんばって行く所存であります。研究室で会った際には気軽にたろびんと声をかけてください。

平野征子 技術職員

認知行動学分野に来て平成17年10月現在1年半になりました。まだ新人のような、そんなことを言っていないような微妙なお年頃(?)です。今年は事務の天野さんが退職されたあと少しの間男性ばかりの教室でしたが、鈴木真理さんが来てくれたおかげでかなりマイルド感がアップしました。今年の収穫は、講師の田中先生と4年生の吉田君と一緒に仕事をさせていただいたおかげで生のお阪弁を聞くことができたことです。あか〜ん、なんでやねん etc

鈴木真理 事務補助員

6月から認知行動学教室で事務を担当しています。最初はとても緊張しましたが、教室の皆様に暖かく迎えていただき、毎日楽しく仕事をしています。先生方の研究にかける情熱により刺激をたくさん受けています。微力ではありますが、少しでもお役に立てるように頑張ります。

岩井英隆 君(医学部6年)

最近は卒業試験に追われて研究も山野辺先生のお手伝いもしていません。研究室通いで国家試験に落ちたなどという悪例を作らないためにも、日々試験勉強に励んでいます。先日神経生理学に興味がある2年生が研究室を訪れていて、その後私と隣の席の吉田さんの2人で「若いって素晴らしい」としばし嘆息していました。やはり研究室を訪ねるのは学年が早い方が良い。自省の念も込めて、そう思います。以上簡単ですが近況とさせていただきます。

吉田篤司 君(医学部4年)

田中先生の下で大脳基底核からのニューロン活動の記録を行っていますが、課題に関連するニューロンを見つけては喜び、課題中に寝てしまう動物さんに怒り、「ピューン…」と死んでしまうニューロンに悲しむ喜怒哀楽な毎日です。大脳基底核はいろんな部位と関連し、注意、報酬などにも関連するため読みたい論文が山のようにでてきてしまうのが難点です。副業の学生生活では内科集中講義がはじまり自分が医学生であることを思い出し、授業に4コマ出てみたのですが慣れないことをしたせいか不整脈が出てしまいました(!?)。

このように個性的な面々が情熱をもって自由に研究に励んでいます。脳の機能に興味のある方はぜひ遊びに、いや勉強しにおいで下さい。